

釧路川 流域委員会

NEWS
No. 8

第8回委員会を
平成17年3月17日に
開催しました。



▲第8回釧路川流域委員会の様子

釧路川
流域委員会
とは？

北海道開発局及び北海道では、今後概ね20～30年間の具体的な河川整備の内容を示す「釧路川水系河川整備計画」を策定します。このため、地域住民、学識経験者等から意見をいただくことを目的として「釧路川流域委員会」を設置しました。

平成17年3月17日(木)、釧路地方合同庁舎において「第8回釧路川流域委員会」が開催されました。委員会では、第6回委員会で示した川づくりの16項目から抽出した、釧路川流域における河川の防災対策のとりくみについての議論や近年の風水害等の事例の報告等がなされました。

●釧路川流域における河川の防災対策のとりくみ

洪水対策

① 広域防災対策

- ・防災ステーション及び水防拠点等を整備
- ・関係機関との連携



▲完成イメージ図

② 洪水氾濫被害の軽減対策

- ・堤防越水時の被害の軽減として、堤内地に樹林帯を整備
- ・非常時に備え、土砂等を備蓄しておく側帯を整備

③ 内水排除の支援

- ・排水ポンプ車の貸し出すなど、関係機関と連携し、内水被害を軽減
- ・備蓄資材の点検・補充や釜場の設置、水防訓練等の活動を支援

④ 情報伝達基盤整備の充実化

- ・光ファイバー網の整備
- ・管理施設の遠隔操作化による管理体制を強化
- ・河川の常時画像の監視や流域住民へのリアルタイムな情報提供

⑤ 地域や関係機関との連携

- ・洪水時は「釧路川水防連絡協議会」にて、市町村との連携を図り、緊急時の行動や水防活動を支援
- ・平常時は、住民に対して水防の重要性の普及・啓発、河川情報の提供・周知を図り、緊急時の住民の判断・行動を支援

津波・高潮対策

- ・釧路川・新釧路川の河口部において、想定する高潮または津波水位に対応した堤防整備を実施

防災情報の提供・公開・通知・啓発

① 水理・水文情報等の提供

- ・雨量・水位観測所の設置及び収集情報の河川水位予測等への活用
- ・インターネットや携帯電話等を活用した河川水位・流量等の情報提供とその普及啓発

② 浸水想定区域図の公開

- ・迅速かつ円滑な避難及び被害軽減を目的とした浸水想定区域図の公開
- ・市町村のハザードマップ作成の支援

③ 水防警報の発令・通知

- ・釧路開建と気象台の共同による洪水予報の発表
- ・水防警報の発令及び関係自治体への通知
- ・マスコミや関係機関を通じた地域住民への情報提供

④ 地震・津波の防災情報の提供・啓発

- ・水位・流量観測所や地震計の設置及びリアルタイム情報の速やかな伝達・提供
- ・携帯電話・インターネット等のメディア活用による住民への情報提供

◆第8回釧路川流域委員会 審議要旨◆

■第7回委員会までの審議・決定事項と今後の予定について

- 今後釧路開発建設部では河川整備計画策定に向けた検討を行っていくが、河川整備基本方針が策定されるまでの間、本委員会では意見をいただくことが可能な事項から議論を進めていきたい。
- 今後の委員会の作業としては、具体的な16項目をまとめていくことになると思うが、釧路川流域の景観整備が重要と思う。川は景観の軸として重要なものであり、釧路市と標茶町と弟子屈町は釧路川がまさに市街地の中を通ることもあり、流域全域ではなく3つの市街地の河川景観をどのように考えるかが河川整備計画の中に含まれるべきである。

■近年の風水害等事例と河川の防災対策について

- 津波の影響は、地形、地震の震源地、波の方向で全く違うため、津波を全て予測するということはほとんど不可能であり、早期警報システムが重要な役割を果たすのではないかと。
- 一昨年の洪水時に、湿原内に入る道路が冠水した情報が、観光客に伝わってなかった。この道路のある五十石と岩保木の観測所の間に観測所を増やすことは考えられないか。情報がスムーズに出来るのではないかと。
- 観光客など現地を知らない人たちに、河川や道路、地域の情報を提供し、共有することは大切である。関係機関と連携しながら、情報周知問題に取り組むことは、地域にとっても大事な課題である。
- グランドデザインを作るときにも、河川情報を利用したいというような住民からの声が多かった。釧路川に関わっていく上で、カヌー利用者や観光客のニーズを聞いていくことも大切だと思う。
- 橋の名前は道路に向かって書いてあるが、カヌーで釧路川を下ると何の橋だか分からない。分かるようにできないか。これはすぐに出来そうな気がする。
- 台風の度に高潮になるが、高潮対策は釧路で一番重要な被害対策になるのではないかと。久寿里橋から旭橋の間が、最も冠水する場所である。津波へ対応は、中央防災会議の結果を待たなければ計画が立たないとしても、細心の注意をはらってほしい。
- 一般の市民や河川流域で仕事している人が、河川情報を確認できるような場所はあるのか。また、画像やリアルタイムで確認できるような情報が発信されているのか。今後の情報伝達基盤整備として、リアルタイムな情報の発信の仕方はあるような方向性で計画しているのか。釧路川流域における現状または今後の警戒システムの導入は、どのような状況になるのか。
- 河川整備計画について考えると、昨年は全国で自然災害が多発しているが、水災害については、治水施設の整備の進捗率が高い方が災害は少ないのか。逆に被害の多いところは進捗率が低いという解釈でよいのか。

■釧路湿原自然再生協議会の進捗状況について

- 平成17年3月中に全体構想を策定し公表する。全体構想の策定を踏まえ、小委員会において実施計画の作成方針や素案の討議を行っていく予定である。

釧路川水系の河川整備計画を策定する釧路開建設部は、建設局が釧路川と新設土現の踏切間を「釧路川流域委員会」が十七日、釧路地方合同庁舎で開かれ、新年度は合同庁舎で開かれ、同計画の原案を作成することなどを申し合わせた。

同計画は、十一、十二年間の長期的な河川整備のあり方が盛り込まれる予定。同案は釧路市、釧路下、標茶町と、流域六市町村の自治体、学識経験者ら十八人が構成。二、三年間の短期計画も盛り込まれた。〇、六年の短期計画は計画策定後に検討される。

この日は、原案決定へ向け、建設局が釧路川流域での洪水等の軽減対策、情報伝達施設の整備状況などを説明。委員からは「河川整備で、市民の安全を確保し、夏場は観光客を誘引した水景橋の提供も必要ではないか」といった指摘があった。

▲平成17年3月18日(金) 北海道新聞

整備計画の原案策定へスケジュールなど確認
釧路川流域委が第8回会合

【釧路】釧路川流域委員会(委員長・小橋浩二)は、河川整備計画の原案となる河川整備基本方針(〇五年版)を、二日、釧路地方合同庁舎で策定した。同計画は、約一年の準備期間を経て、今年度から実施される。整備計画については、基本方針が策定される前に、議論を進めることから、議論を進めていく考えを示した。

また同席では、河川整備計画は、今年度中に同委員会の第11回会合で、三回の委員会を取りまとめ、二〇二一年十月に策定。これまでの議論で、釧路川流域の将来像(グランドデザイン)やグランドデザインの具現化を促した。未来の川づくりのあり方に向けた具現化の十六項目を決めている。

この日の会合では、事務局が今後の委員会スケジュールを説明した。

自然災害の事例は、〇二年九月二十六日に発生した十勝沖地震で、満潮時に津波が押し寄せ、釧路川下流の久寿里橋、旭橋、岩保木橋の浸水が確認された。この日の会合では、事務局が今後の委員会スケジュールを説明した。

▲平成17年3月19日(土) 北海道建設新聞

◆釧路川流域委員会 委員◆

◎は委員長
○は副委員長

所属	職名	氏名	出欠
北海道旅客鉄道(株)釧路支社	支社長	一條 昌幸	○
北見工業大学 工学部	教授	内島 邦秀	○
標茶町農業協同組合	組合長	門田 功一	×
釧路公立大学(地域経済研究センター長)	教授	小磯 修二	◎
(株) 釧路新聞社	記者	佐竹 直子	○
NPO法人トラストサルン釧路	事務局長	杉 沢 拓男	○
釧路自然保護協会	会長	高山 末吉	×
財団法人 北海道環境財団	理事長	辻井 達一	○
釧路水産用水汚濁防止対策協議会	顧問	濱 隆 司	○
北海道標茶高等学校	校長	古屋 接雄	×
釧路市	市長	伊東 孝良	×
釧路町	町長	菅原 澄	×
標茶町	町長	今西 猛	×
弟子屈町	町長	徳永 哲雄	○
阿寒町	町長	中島 守一	○
鶴居村	村長	白野 浦正志	×

あしたを創る 北の知恵
国土交通省
北海道開発局

 釧路開発建設部治水課
〒085-8551 釧路市幸町10丁目3番地
TEL(0154)24-7000
http://www.ks.hkd.mlit.go.jp

 北海道釧路土木現業所事業部治水課
〒085-0006 釧路市双葉町6番10号
TEL(0154)23-6111
http://www.pref.hokkaido.jp/kensetu/kn-ksrdg/index.htm